

生活支援コーディネーターが支援します

●問い合わせ先 高齢者支援課 包括支援センター班(ヴィーブル) ☎(248)1126
市社会福祉協議会 ☎(242)7000

市では市社会福祉協議会などと連携し生活支援コーディネーターを配置しています。生活支援コーディネーターを中心に、高齢者の地域での支え合い活動や見守り活動、通いの場などの活動を支援しています。

生活支援コーディネーターの役割

- ①高齢者が地域で生活するうえでの困りごとを調査します。
- ②地域で取り組んでいる介護予防活動や、支え合い活動を推進します。
- ③生活支援ボランティアを育成します。
- ④支え合いのネットワークを作ります。



「誰かのために役立ちたい」「ボランティア活動をしたい」「日常生活での困りごとを解決したい」などの声がありましたら、お気軽にご相談ください。

▼受付窓口

- ・高齢者支援課 包括支援センター班
- ・市社会福祉協議会

地域げんきフォーラム

生活支援コーディネーターは、年1回、地域げんきフォーラムを開催し、地域で支え合い活動をしている団体を紹介しています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため方法を変え、コロナ禍でも工夫しながら見守りや通いの場の活動を行なった地区にインタビューし、その活動を紹介する動画を作成しました。市社会福祉協議会ホームページで公開していますのでぜひご覧ください。



市社会福祉協議会
ホームページ

生徒募集

クリエイター塾に参加してみませんか

●問い合わせ先 生涯学習課 生涯学習班 ☎(248)5555

市では映像を通して、地元の魅力を発信できる市民作家を育成することを目的として、情報発信講座クリエイター塾を行なっています。

7年目を迎える本塾は、撮影などの一部を除き、オンライン授業にて開催します。

さらに本年度は、クリエイター塾に共感してくれた青森県六戸町と石川県内灘町と共同開催のため、全国規模で仲間づくりができます。授業でも意見交換の時間を準備していますので、幅広い考え方を学ぶことができます。

昨年度の様子は二次元コードから視聴できますので、ぜひご覧ください。

クリエイター塾説明会

- ▼とき 7月25日(日) 午後4時～
- ▼ところ オンライン開催
- ▼申込方法 二次元コードから申し込んでください。
- ▼参加費 無料



授業プログラム

本年度は、企画、演出の考え方を学び、グループワークで映像制作を行な



う基礎編と、著作権や編集ソフトを学んだり、プロの編集現場を見ることができ、EXTRA授業を開催します。それぞれに申し込みが必要となります。

▼基礎編

- ・開催期間 9月4日(土)～11月27日(土) 全6日間
- ・おおよそ制作活動に必要な日数
- ・参加費 10,000円(市内外問わず)

▼EXTRA授業

- ・開催期間 9月3日(金)～11月28日(日) 全6日間
- ・参加費 8,000円(市民) 10,000円(市外在住者)

参加団体募集中

こうしぼちぼち元気ポイントで元気に

●問い合わせ先 高齢者支援課 包括支援センター班(ヴィーブル) ☎(248)1126

こうしぼちぼち元気ポイントとは

年齢を重ねてもいきいきと元気に過ごし、健康になつてもらふことを目的に実施しています。

趣味活動などで集まっている団体をこうしぼちぼち元気スポットとして登録すると、1回の活動で1ポイント貯まり、年間での上位入賞者を表彰しています。

▼対象

- ①おおむね65歳以上の人が中心の団体
- ②おおむね5人以上の団体
- ③原則週1回以上の活動がある団体
- ④主たるメンバーが市民である団体

登録を希望する団体は、申請書と名簿の提出が必要です。詳しくはお問い合わせください。たくさんのご参加をお待ちしています。

第4期(令和2年4月～令和3年3月実施分)

個人の部 (期間内の取得ポイント)

優勝	森下 孝行 さん	(148ポイント)
準優勝	横山 哲義 さん	(142ポイント)
3位	岩下 哲夫 さん	(140ポイント)
	信岡 八重子 さん	(140ポイント)

※入賞者の皆さんはクラブみよしの会員です。

団体の部

3部門優勝	クラブみよし(グラウンドゴルフ)
①参加率部門(参加人数/登録人数)	78.8%
②活動数部門(活動を行なった回数)	150回
③総合部門	20ポイント



第4期に参加した5団体中、全部門で受賞されたクラブみよしの皆さん。皆さんの活動が地域の元気につながっています。



人権よもやま話

●問い合わせ先 人権啓発教育課 啓発教育班 ☎(248)2399



人権擁護委員
松本 拓也

ひと昔前までは小学生のランドセルの色は男の子は黒、女の子は赤というのが一般的でした。

以前、大阪の小学校に入学した春子(仮名・女の子)は黒色のランドセルで登校して来ました。しばらくすると周りの一人の子から「変なの」と言われました。それでも気にせず登校していましたが、次第にそのようなことを言う子が増え、春子は登校を渋るようになりました。

様子に気付いた母親が春子に尋ね、学校での出来事が分かりました。担任に相談し、担任は子どもたちに指導を行ないました。表面での発言はなくなりましたが、陰でいじめがエスカレートし、とうとう春子は転校することになりました。

次の学校でもやはり黒いランドセルで登校しました。担任は、その黒いランドセルを一目見て心に引っ掛かるものを感じ、すぐに家庭訪問をしました。

一通りの話が終わった後、最後に

黒いランドセルの話の切り出ししました。すると母親の表情が一変し、涙を流しながら次のような話をしたのです。

春子には2歳上に兄がいました。入学して2日間は学校に行つたのですが、3日目から行けなくなったのです。小児癌に侵され、緊急入院し、とうとう亡くなりました。そして2年が過ぎ、春子が入学するときに新しいランドセルを買ってあげようという話がありましたが、「「いい」と断り「お兄ちゃんのランドセルをからって、お兄ちゃんと一緒に学校に行くの。お兄ちゃんの分まで頑張るからね」と言ったのです。

担任はこの話に強い衝撃を受け、学校に戻り同僚や先輩の先生に伝えました。この学校ではこのことを組織的に受け止め教材化し、取り組みが進められたそうです。

この担任のように「何かある」と感じる感覚、小さなことに気づく感覚、それが人権感覚と言えるのかも知れません。現在では、ランドセルの色も形もさまざまです。「みんな違ってみんな良い」の言葉が示す通り、個性が尊重され、既成概念が見直され始めているのも人権教育の深化発展の成果だと思っています。